

2024年度 事業計画

社会福祉法人 幸仁会

1. 2024年度 事業計画の概要

- 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは100%、通所系は80%を必達目標とし、サービスを必要とするより多くの方に利用していただく。主に、かおりの丘デイサービス、ケアホーム花畑の利用促進に取り組む必要性がある。
 - 訪問系サービスは職員1人あたり、1日5名の提供を目標とする。
 - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを整備する。
 - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
 - 長期にわたる不採算事業については、事業内容も踏まえ継続の有無について早期検討する。
 - 法人施設の健全な運営の為の連携の整備
 - 相互に連携、協力体制をもち、ノウハウなどの利点を最大限に生かす。
 - 重大事故発生時や、虐待防止法等の法令に触れるような違反、行政指導があった場合は、法人の各拠点の代表者がその対応を協議する。
 - 組織での不祥事等を未然に防ぎ、公正な判断や運営、改善に向けた取り組みが可及的速やかに行えるよう、施設内で対応困難な有事の際は初発段階で法人内3拠点+介護福祉事業部に報告。
 - 対応進捗や支援状況についても法人内3拠点+介護福祉事業部に共有。事態の早期収束と改善に向かうようガバナンス機能の維持、必要な支援について協議の為連携を維持。
 - 地域貢献活動の充実
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続していく。
 - 自立支援の指定、共生型の推進
 - 福祉事業者以外、異業種と連携
- サービスの質
 - 利用者、家族、地域の方々の声を聴き、高品質なサービスの提供を行う意識や体制づ

くりを進める

- 個々の技術面のみならずチームとしてのサービス提供体制を確立する為あきらめず話し合う。
- 人材育成、職場環境の整備
 - 労働環境における問題等を職員皆で解決に向けて話し合い、信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備
 - 生産性向上へ向けた職員が主体となった取組の実施
 - 育成、指導、研修
 - ケアの質の向上の為、施設内研修だけでなく、施設外のケアアドバイザー等による指導、研修受講
 - 新入職員(特に介護未経験者)に対するOJT研修体系の確立
 - 各拠点において次の世代が訪れる施設に向けての取り組みの実施
 - 職業倫理、各種法令の理解と浸透を図る
 - マニュアル類、BCPの整備、周知の徹底育成、指導、研修
 - 職業倫理、各種法令の理解と浸透を図る
- 新規事業、改修工事
 - 予定なし
- 介護報酬改定
 - 特養
 - 収益(前年度比): +3.7%
 - 要因
 - 基本サービス費のアップ +2.5%
 - 加算算定による増収 +0.9%
 - 居住費の改定による増収 +0.3%
 - デイサービス
 - 収益(前年度比): +0.9%
 - 要因
 - 基本サービス費のアップ +0.3%
 - 加算算定による増収 +0.6%
 - 訪問介護
 - 収益(前年度比): -0.8%
 - 要因
 - 基本サービス費のアップ -2.5%
 - 加算算定による増収 +1.7%

2. 運営目標(稼働率、利用者数)

高齢者事業

- 特養(稼働率)

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

事業所名	2023年度*	2024年度 目標
特養かおりの丘(入所)【60名】 (ショート)【10名】	101.1% 63.6%	99.0%(-2.1%) 80.0%(+16.4%)
ヴィラー宮(入所)【20名】	90.2%	98.0%(+7.8%)
ヴィラ泉 (入所)【110名】 (ショート)【10名】	96.8% 98.8%	98.0%(+1.2%) 99.0%(+0.2%)
ケアホーム花畑(ユニット型入所)【72名】 (ユニット型ショート)【12名】 (従来型入所)【36名】	91.7% 77.4% 98.1%	90%(-1.7%) 70.0%(-7.4%) 98.0%(-1.0%)

- 通所介護(稼働率)

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

事業所名	2023年度*	2024年度 目標
かおりの丘デイサービスセンター【35名】	64.7%	70.0%(+5.3%)
平成デイサービスセンター泉【20名】	84.3%	86.0%(+1.7%)

- 訪問看護(延べ人数)

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

事業所名	2023年度*	2024年度 目標
訪問ステーションてととと洲本	11,192名	11,792名(+600名)

- 訪問介護(延べ人数)

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

事業所名	2023年度*	2024年度 目標
かおりの丘ホームヘルプサービス	7,347名	12,630名(+5,283名)

- 居宅(ケアプラン数)

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

事業所名	2023年度*	2024年度 目標
かおりの丘居宅介護支援事業所	700名	700名(±0名)

障がい者事業

- 居宅介護・重度訪問介護(延べ人数) *2023年度:2024年3月の見込値を含む

事業所名	2023年度*	2024年度 目標
かおりの丘ホームヘルプサービス	1,741名	1,760名(+19名)

- 移動支援(延べ人数) *2023年度:2024年3月の見込値を含む

事業所名	2023年度*	2024年度 目標
かおりの丘ホームヘルプサービス	307名	310名(+3名)

その他事業

- 在宅介護支援センター *2023年度:2024年3月の見込値を含む

事業所名	2023年度*	2024年度 目標
かおりの丘在宅介護支援センター	480名	600名(+120名)

2024年度 事業計画

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

- かおりの丘(特養)【定員:入所-60名 ショート-10名】
 - かおりの丘デイサービスセンター(通所介護)【定員:35名】
 - かおりの丘ホームヘルプサービス
(訪問介護、障害福祉サービス:居宅介護・重度訪問介護・移動支援)
 - かおりの丘在宅介護支援センター
 - かおりの丘居宅介護支援事業所
-

高齢者事業

かおりの丘(特養)【定員:入所-60名 ショート-10名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは特養99%、ショート80%を必達目標とし昨年より多くの方にご利用いただく。
 - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを構築し、会議で共有する。
 - 週単位での会議を実施する。
 - 稼働や支出状況の改善策を随時検討し素早く実行する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域サロン等へ外出
 - 社会福祉協議会等の他の社会福祉法人との連携
 - 施設への移動手段について検討
 - ボランティアの積極的な受け入れ
 - 介護保険や福祉施設の枠内に捉われず協働するスタンス作り
 - 自立支援の指定、共生型の推進
 - 福祉事業者以外、異業種と連携
 - 経営方針の明確化
 - 「この場所を自然と人が集う、あたたかい場所に、そして楽しむ」入居者のここで暮らしたい、職員の働きたいと思える、そして地域の方や、さまざまな人にとってあたたかい、開かれた環境、社会を目指す。
 - サービスの質
 - かおりの丘においての2023年5月の虐待通報案件を受け、その後の対応として、施設の現状、虐待案件に至った要因について、職員の意見、虐待防止委員会による検討調査、第三者的な視点での提案も鑑み、「入居者のここで暮らしたい」と思える環境改善に向け、下記取り組みを行っていく。
 - ケアの質の向上の為、施設内研修だけでなく、ケアアドバイザー等による外部の指導を受ける。専門職倫理、虐待防止法等その他関連法令に関する理解の浸透を図る。
 - 家族会の再開等、コロナ渦で見送っていた機会の再開
 - 安全や快適性、日常の生活動作支援を加味したハード面の環境改善
 - サービス提供に当たっては、継続して感染症予防を十分に行う。
 - 各種委員会を適正に運営しサービスの点検と安定性を図る。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 職員が協働できる体制へ向け、組織体制と人員体制を見直す
 - 職員のストレスケアと働きがい・モチベーション向上を図る

- 管理職や役職者、現場職員との日常的なコミュニケーションの活性化
- 問題の早期解決や、ストレスマネジメント、職員のこうしたい(主体性)を引き出す支援、ステップアップや目標に対する支援を行う。
- 業務マネジメントとスケジュール等の見直し
- その他、部署を超えて施設全体で助け合える風土、風通しの良い職場の雰囲気作りの一環としてイベントを定期開催する
- 育成、指導
 - ケアの質の向上の為、施設内研修だけでなく、施設外のケアアドバイザー等による指導、研修受講
 - 新入職員(特に介護未経験者)に対するOJT研修体系の確立。
- 次の世代が訪れるきっかけ作り
 - 保育所～高校等への訪問
 - トライヤルウィーク等の職業体験の再開
- ホームページ等情報発信の充実と施設の見える化

● 介護報酬改定

- 収益(前年度比): +3.5%
- 要因
 - 施設サービス費の改定: +1.8%
 - 新設加算の算定: +1.2%
 - 居住費の改定: +0.5%

● 主な指標

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

○ 入所

	2023年度*	2024年度 目標
稼働率	101.1%	99%(-2.1%)
平均要介護度	3.9	4.0(+0.1)
単価(人・日)	11,483円	12,381円(+898円)

○ ショート

	2023年度*	2024年度 目標
稼働率	63.6%	80%(+16.4%)
平均要介護度	2.7	2.8(+0.1)
単価(人・日)	10,946円	11,141円(+195円)

● 実現するための取り組み

- 稼働率
 - 待機者、申込者の状況確認を細めに行ない、空床時のご案内を迅速に行う。
 - 出来る限り多くの他事業所と連携するため、パンフレット、チラシなどを活用し、事業所訪問し、ご相談を頂きやすい関係性の構築を図る。
 - ホームページ等の活用で施設の情報を提供する。
 - 入院者の週単位での状況確認を実施する。
 - 入所状況に関する会議の定期開催を継続する。
- 平均要介護度
 - 要介護度の高い方や認知症の進行した方も積極的に受け入れる。
- 加算について
 - 栄養マネジメント強化加算の継続算定
 - 褥瘡マネジメント加算の継続算定
 - 排せつ支援加算の継続算定
 - 安全対策体制加算の継続算定
 - ADL維持等加算(Ⅰ)の算定
 - LIFEを活用した加算の継続算定
 - 個別機能訓練加算(Ⅲ)の新規算定
 - 協力医療機関連携加算(2)の新規算定
 - 高齢者施設等感染対策向上加算(Ⅱ)の新規算定
 - 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)の新規算定
 - 介護職員等処遇改善加算(Ⅱ)の新規算定
 - 日常生活継続支援加算(Ⅰ)の新規算定
- その他取り組み
 - 入所者の健康管理や状態・ADLの維持に施設全体で取り組む。

かおりの丘デイサービスセンター(通所介護)【定員:35名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 70%を必達目標とし昨年より多くの方にご利用いただく。
 - 地域の事業者との連携の強化のために、スムーズな新規受け入れの仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを構築し、会議で共有する。
 - 週単位での会議を実施する。
 - 稼働や支出状況の改善策を随時検討し素早く実行する。
 - 経営方針の明確化

- 「この場所を自然と人が集う、あたたかい場所に、そして楽しむ」
利用者のここで暮らしたい、職員の働きたいと思える、そして地域の方や、さまざまな人にとってあたたかい、開かれた環境、社会を目指す。

○ サービスの質

- 利用者その人にとっての楽しみや居心地の良さに向けた支援、利用者最優先で高品質なサービスの提供を行う意識や体制づくりを進める。
- 個々の技術面のみならず、チームとしてのサービス提供体制を確立するため、職員間の話し合い、意思疎通を図る。
- サービス提供に当たっては、継続して感染症予防を十分に行う。
- 各種委員会を適正に運営しサービスの点検と安定性を図る。
- 人材育成、職場環境の整備。
 - 職員のストレスケアと働きがい・モチベーション向上を図る
 - 管理職や役職者、現場職員との日常的なコミュニケーションの活性化
 - 問題の早期解決や、ストレスマネジメント、職員のごしたい(主体性)を引き出す支援、ステップアップや目標に対する支援を行う。
 - その他、部署を超えて施設全体で助け合える風土、風通しの良い職場の雰囲気作りの一環としてイベントを定期開催する
- 研修の実施。
 - 外部研修への積極的参加。
 - 接遇マナーの向上。
 - 新入職員(特に介護未経験者)に対するOJT研修体系の確立。
- マニュアル類、BCP対応、周知の徹底。

● 介護報酬改定

- 収益(前年度比): +0.7%
- 要因
 - 施設サービス費の改定: +0.2%
 - 新設加算の算定: +0.5%

● 主な指標

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

	2023年度*	2024年度 目標
稼働率	64.7%	70.0%(+5.3%)
平均要介護度	2.4	2.5(+0.1)
単価(人・日)	8,982円	9,200円(+218円)

● 実現するための取り組み

- 稼働率

- 短時間デイの送迎実施など、個々の利用者に合わせた個別性のある介護サービスを提供する。
 - 以前より取り組んでいる「したいことができるデイ！」を継続し、利用者の意欲を引き出せるよう、サービス内容を見直し、新規の利用にも繋げる。
- 利用中の利用者についてはADL・状態維持に努め、継続利用に繋げる。
- 平均要介護度
 - 介護支援専門員と家族様と連携し、介護度が高い方も積極的に受け入れる。
- 加算について
 - 通所介護入浴介助加算の継続算定
 - 個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱの継続算定
 - 介護処遇改善加算Ⅰの新規算定
 - LIFEを活用した加算の継続算定
- その他取り組み
 - ADL維持等加算算定に向けてのBI値測定の実施。

かおりの丘ホームヘルプサービス

(訪問介護、障害福祉サービス:居宅介護・重度訪問介護・移動支援)

- 事業計画の概要
 - 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善。
 - 訪問介護員1人1日5時間を必達目標とし昨年より多くの方にご利用いただく。
 - 地域の事業者との連携を強化し、スムーズな新規受け入れの仕組みを構築する。
 - 2023年度に外部事業所の閉鎖に伴い、当事業所をご利用頂く事となったご利用者様にも引き続きご利用頂けるよう努める。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを構築し、会議で共有する。
 - 週単位での会議を実施する。
 - 稼働や支出状況の改善策を随時検討し素早く実行する。
 - 経営方針の明確化
 - 「この場所を自然と人が集う、あたたかい場所に、そして楽しむ」利用者の中で暮らしたい、職員の働きたいと思える、そして地域の方や、さまざまな人にとってあたたかい、開かれた環境、社会を目指す。
 - サービスの質
 - 職員間の情報共有を密に行い、利用者最優先で高品質なサービスの提供を行う意識や体制づくりを進める。
 - 個々の技術面のみならず、チームとしてのサービス提供体制を確立するため、職員間の話し合い、意思疎通を図る。
 - サービス提供に当たっては、感染症予防を引き続き十分に行う。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 人材育成、職場環境の整備。
 - 職員のストレスケアと働きがい・モチベーション向上を図る
 - 管理職や役職者、現場職員との日常的なコミュニケーションの活性化
 - 問題の早期解決や、ストレスマネジメント、職員のこうしたい(主体性)を引き出す支援、ステップアップや目標に対する支援を行う。
 - 研修の実施。
 - 外部研修への積極的参加。

- 接遇マナーの向上。
- 新入職員に対するOJT研修体系の確立。
- マニュアル類、BCP対応、周知の徹底。

- 介護報酬改定

- 収益(前年度比): ▲0.8%
- 要因
 - 施設サービス費の改定: ▲2.5%
 - 新設加算の算定: +1.7%

- 主な指標

(介護保険)

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

	2023年度*	2024年度 目標
延べ人数	7,347名	12,630名(+5,283名)
平均要介護度	2.2	2.4(+0.2)
単価(人・日)	3,224円	3,300円(+76円)

(障害福祉サービス)

居宅

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

	2023年度*	2024年度 目標
延べ人数	1,741名	1,760名(+19名)
単価(人・日)	3,458円	3,500円(+42円)

(障害福祉サービス)

移動支援

2023年2月～

	2023年度*	2024年度 目標
延べ人数	307名	310名(+3名)
単価(人・日)	2,300円	2,300円

- 実現するための取り組み

- 利用者へのサービス展開
 - 効率よく訪問を進められるシフト表作り。
 - 介護保険外の自立支援分野に積極的に参加する。
 - 地域の介護支援専門員との連携を密にし、空き状況を伝えていく。

- 平均要介護度
 - 介護支援専門員と連携し、重度要介護者も積極的に受け入れる。
- 加算について
 - 特定事業所加算Ⅱの継続算定(介護保険)
 - 特定事業所加算Ⅱの継続算定(障害保険)
 - 介護処遇改善加算Ⅰの新規算定

かおりの丘在宅介護支援センター

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 地域福祉推進のために行政から委託された事業。
 - 地域支援事業として介護教室や研修会および講義等の開催。
 - 関係者会議・地域ケア会議の管理運営等
 - 独居高齢者の世帯訪問(一宮地区 北淡東地区)
 - サービスの質
 - 地域福祉推進のために行政から委託された事業、社会資源の開発、地域高齢者の実態把握。地域支援事業(出前講座の開催など)
 - 人材育成
 - 職場環境の整備。
 - その他
 - 昨年度に引き続き感染症対策の徹底。
 - 標準予防策の徹底。(手洗い、消毒、マスク、フェースシールド着用等)
- 主な指標
 - 収益:行政からの委託金額 4,508,000円
- 実現するための取り組み
 - 高齢者訪問
 - 訪問件数600件を目標(月50件訪問)を目指す。
 - 単身世帯高齢者 高齢者世帯の実態把握・見守り活動を強化する。(広報、営業活動も兼ねる)
 - 地域支援事業
 - 認知症サポーター養成講座・福祉教室等での活動や関係者会議に参加。
 - 各小地域での出前講座など
 - 介護支援専門員や関係職種とのネットワーク作りのため、情報提供と共有
地域活動者との仲介等

かおりの丘居宅介護支援事業所

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、向上
ケアマネの担当件数は規定人数39名を目指す。
 - サービスの質
 - 現在ケアマネが担当している利用者の情報共有。
 - 申し送りについて誰でも状況が理解でき、連携や共有が滞らないように「聞く」「話す」の徹底。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 「一人で抱え込まない」環境作り。
 - 職員の業務の動きを逐一報告する仕組み。
- 介護報酬改定
 - 収益(前年度比): +1%
 - 要因
 - 入院時情報連携加算の単価変更

- 主な指標

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

	2023年度*	2024年度 目標
ケアプラン数	700名	700名(±0名)
平均要介護度	2,2	2.3(+0.1)
単価(人・月)	9,734円	10,000円(+266円)

- 実現するための取り組み
 - 新たな介護報酬の内容を理解し、根拠をもとに算定を実施する。
 - 介護保険における要介護・要支援者の居宅サービス計画策定。
 - 利用するサービスの種類・内容等を定めた居宅サービス計画の作成、居宅サービス事業者との連絡調整。
 - 介護保険施設の紹介等のケアマネジメント委託業務。(介護保険認定調査 介護予防サービス計画作成等)
 - 新型コロナウイルス感染症に関して、重症化リスクの高い高齢者へのサービス提供を考慮し、5類以降後も必要な感染症対策を検討し継続。

2024年 3月26日

2024年度 事業計画

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラー宮(地域密着型介護老人福祉施設)【定員:入所-20名 ショート空床利用】

高齢者事業

ヴィラー宮(地域密着型介護老人福祉施設)【定員:入所-20名 ショート空床利用】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 稼働率は98%(1日平均19.8人)を必達目標とする。
 - 地域の事業者との連携を強化し、スムーズな新規受け入れの仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 稼働率、推移表を更新・把握し、現状の状況に注意する。
 - 複数年にわたる赤字収支について、事業運営の継続についても検討
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域サロン等へ外出
 - 社会福祉協議会等の他の社会福祉法人との連携
 - ボランティアの積極的な受け入れ
 - 福祉事業者以外、異業種と連携
 - 地域一体となった行事を行うため、地域の方々の意見を聞いた上で、共に企画する。
 - 感染症予防の為、地域ボランティアを施設へ招くことが難しい場合、職員等を中心に地域行事への参加も積極的に検討する。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続する。
 - サービスの質
 - 個々の技術面のみならず、チームとしてのサービス提供体制を確立するため、職員間の話し合い、意思疎通を図る。
 - 家族会の再開等、コロナ渦で見送っていた機会の再開
 - 安全や快適性、日常の生活動作支援を加味したハード面の環境改善
 - サービス提供に当たっては、継続して感染症予防を十分に行う。
 - 各種委員会を適正に運営しサービスの点検と安定性を図る。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 職員のストレスケアと働きがい・モチベーション向上を図る
 - 管理職や役職者、現場職員との日常的なコミュニケーションの活性化
 - 問題の早期解決や、ストレスマネジメント、職員のごうしたい(主体性)を引き出す支援、ステップアップや目標に対する支援を行う。
 - 業務マネジメントとスケジュール等の見直し
 - その他、部署を超えて施設全体で助け合える風土、風通しの良い職場の雰囲気作りの一環としてイベントを定期開催する
 - マニュアル類、BCPの整備、周知の徹底。

- 介護報酬改定

- 収益(前年度比): +4.4%
- 要因
 - 施設サービス費の改定: +2.3%
 - 新設加算の算定: +1.6%
 - 居住費の改定: +0.5%

- 主な指標

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

	2023年度*	2024年度 目標
稼働率	90.2%	98.0%(+7.8%)
平均要介護度	3.3	3.5(+0.2)
単価(人・日)	13,325円	13,500円(+175円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 待機者、申込者の状況確認を行ない、入院や退所の際に迅速に対応できる体制を整える。
- 入所状況に関する会議の定期開催を継続する。
- 同敷地内の特養かおりの丘と連携して、地域の事業者から新規利用者の申込みの案内をする。
- ホームページ等の活用で施設の情報を提供する。

- 平均要介護度

- 入所コーディネートマニュアル(入所が必要な順)に沿い、適切に入所を進める。
- 要介護度や認知症が進行した方も積極的に受け入れる。
- 定期的な評価により現状に合った要介護度の見直しを行う。(区分変更)

- 加算について

- 栄養マネジメント強化加算の継続算定
- 褥瘡マネジメント加算の継続算定
- 排せつ支援加算の継続算定
- 安全対策体制加算の継続算定
- LIFEを活用した加算の算定
- 日常生活継続支援加算の算定
- 新)介護職員等処遇改善加算(Ⅰ)の算定
- 新)協力医療機関連携加算(1)の新規算定
- ADL維持等加算(Ⅰ)の新規算定

- その他取り組み
 - 入所者の健康管理や状態・ADLの維持に施設全体で取り組む。

2024年 3月26日

2024年度 事業計画

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ泉(特養)【定員:入所-110名 ショート-10名】

平成デイサービスセンター泉(通所介護)【定員:20名】

高齢者事業

ヴィラ泉(特養)【定員:入所-110名 ショート-10名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所稼働率は98%、ショートは99%を必達目標とする。
 - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築する。
 - ショートステイのサービスを充実させてリピーターを増やす。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を施設利用日報の稼働率推移や支出状況で確認し、改善策を検討する。
 - 毎月の加算算定の状況を把握し、取得可能な加算は取得する。
 - 新規利用者の獲得に向けた対策を検討する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続する。
 - サービスの質
 - 利用者のQOL向上に向け、利用者の視点でサービスの提供が行える意識や体制づくりを進める
 - 利用者のペースに合わせた食事や入浴の提供を進める
 - 役職者を適切に配置しサービス体制を強化する
 - 個々の技術面のみならず、多職種が協力しチームとしてのサービス提供体制を確立する
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 実践に即した体験型研修の実施
 - 外部研修への積極的参加
 - 接遇マナーの向上
 - 新入職員(特に介護未経験者)に対するOJT研修体系の確立
 - 職種、経験や個人の特性に即した研修の実施
 - マニュアル類の整備、周知の徹底。
 - 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備。
- 介護報酬改定

- 収益(前年度比): +3.9%
- 要因
 - 施設サービス費の改定: +2.8%
 - 新設加算の算定: +0.9%
 - 協力医療機関連携加算Ⅱ(特養)
 - 退所時情報連携加算
 - 個別機能訓練加算Ⅲ(特養)
 - 高齢者等感染対策向上加算Ⅱ(特養)
 - 生産性向上推進体制加算Ⅱ(特養・ショート)
 - 看取り連携体制加算(ショート)
 - 口腔連携体制加算(ショート)
 - 既存加算の見直し
 - 介護職員処遇改善加算の単価の上昇
 - 居住費の改定: +0.2%
 - 2024年8月より基準費用が+60円上がり2,066円に変更

- 主な指標

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

- 入所

	2023年度*	2024年度 目標
稼働率	96.8%	98.0%(+1.2%)
平均要介護度	3.8	3.8
単価(人・日)	15,080円	15,280円(+200円)

- ショート

	2023年度*	2024年度 目標
稼働率	98.8%	99.0%(+0.2%)
平均要介護度	2.8	2.8(±0)
単価(人・日)	15,128円	15,278円(+150円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- 常に待機者を作り、入院者の状況を把握しながら空床のない計画を作成する。
- 入所・短期入所のスタッフが共通意識を持ち対応を行う
- 魅力的な施設をアピールする為、毎月のイベントを企画しホームページ等で情報を提供し、待機者の確保をする。

- 医療行為対応者の受け入れを積極的に行う
 - 加算について
 - 新設の加算は、積極的に取り組んでいく
 - その他取り組み
 - リハビリのできるショートステイ、楽しいもてなしのあるショートステイを目指す

平成デイサービスセンター泉(通所介護)【定員:20名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 稼働率は85%を必達目標とする
 - 居宅介護事業所と連携を強化し、1週間の登録者を平均的に増やしていく
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを整備する。
 - 稼働状況を基に改善策を検討し実行する。
 - 毎月の加算算定の状況を把握し、取得可能な加算は取得する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続する。
 - サービスの質
 - 利用者のQOLの向上を目指し、適切なサービスが行えるように取り組んでいく
 - 利用者一人一人のニーズにあった様々なレクリエーションを企画し、満足度を上げていく
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 研修の実施
 - 接遇マナーの向上
 - 新入職員(特に介護未経験者)に対するOJT研修体系の確立
 - 職種、経験や個人の特性に即した研修の実施
- 介護報酬改定
 - 収益(前年度比): +1.1%
 - 要因
 - 施設サービス費の改定: +0.4%
 - 新設加算の算定: +0.7%

- 主な指標

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

	2023年度*	2024年度 目標
稼働率	84.3%	86.0%(+1.7%)
平均要介護度	2.1	2.5(+0.4)
単価(人・日)	10,269円	10,369円(+100円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- キャンセル等を想定した登録人数を確保する
- 要介護度の高い方の利用者を増やす
- 利用者の満足度を日ごろからヒアリングし、口コミでの利用者獲得を図る。
- 介護職員の職場定着を図り、サービスの安定に繋げる。
- ヘアカットサービスの日やおやつバイキングの日など、スポット利用を希望出来るように対応する。

- 加算について

- 現在取得中の加算を継続して取得する。
- 介護職員処遇改善加算の単価上昇

2024年 3月26日

2024年度 事業計画

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム花畑(特養・ユニット型)【定員:入所-72名 ショート-12名】

ケアホーム花畑(特養・従来型)【定員:入所-36名】

高齢者事業

ケアホーム花畑(特養・ユニット型)【定員:入所-72名 ショート-12名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは90%を必達目標とする。
 - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 令和5年8月の事故発生による影響が大きく、稼働率回復には時間がかかると思われる。
 - 信頼回復に向けた取り組みを全力で行う。
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを整備する。
 - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続する。
 - サービスの質
 - 2023年8月の利用者死亡事件を受け、東京都及び足立区の指導の下、事故の原因究明・職員の教育などの取り組みを行い、ご家族様・ご利用者様安心してご利用していただける施設サービスを行っていく。
 - 認知症への理解を深め、利用者の状況に合わせた適切なケアを行う。
 - 多職種連携を強化し、スムーズなサービスが提供できるような提供体制を確立する。
 - 事故防止委員会を中心に事故検討会議を充実させ、再発防止への取り組みを強化する。
 - 施設内研修及びケアアドバイザー等の外部指導を受け、高齢者虐待や法令順守に関する理解を深めながら良質なサービスを提供する。
 - 家族会を実施し、施設の現状報告やご家族からの意見を聞く機会を作り、信頼回復に努める。
 - 人材育成、職場環境の整備
 - 多職種が協力できる体制に向け、組織体制と人員配置を見直す
 - 管理職や役職者と現場職員が常にコミュニケーションが図れるような環境を作る
 - 職員からの声を大切に、問題の早期解決ができる組織作りを構築する
 - 職員のストレスケアやモチベーションの向上が図れる取り組み

- サービスの質の向上に向けた研修の実施
 - マニュアル類の整備、周知の徹底。
 - 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備。
- 介護報酬改定
 - 収益(前年度比): +3.6%
 - 要因
 - 施設サービス費の改定: +2.7%
 - 新設加算の算定: +0.8%
 - 居住費の改定: +0.1%

- 主な指標

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

- 入所

	2023年度*	2024年度 目標
稼働率	91.7%	90%(-1.7%)
平均要介護度	3.9	3.9(±0)
単価(人・日)	15,249円	15,349円(+100円)

- ショート

	2023年度*	2024年度 目標
稼働率	77.4%	70.0%(-7.4%)
平均要介護度	3.5	3.5(±0)
単価(人・日)	16,281円	16,381円(+100円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- ご家族・地域への信頼回復に努め、選ばれる施設を目指す。
- 地域への営業を強化し、他事業所との連携を深める。
- ホームページ等をこまめに更新し、施設の最新情報を常に発信する。
- 退所後も家族の相談場所として信頼される対応を行う。
- 地域の活動や行事に参加し連携を図る。

- 平均要介護度

- 適正な介護度であるか見直しを行う。
- 要介護度の高い方や認知症の方も積極的に受け入れる

- 加算について

- 現在の取得加算は継続して取り組んでいく

- 新規加算を積極的に取り組んでいく
 - 個別機能訓練加算Ⅲ
 - 協力医療機関連携加算Ⅱ
 - 高齢者施設等感染対策向上加算Ⅱ
 - 生産性向上推進体制加算Ⅱ
 - 介護職員処遇改善加算Ⅰの変更
- その他取り組み
 - 利用者の満足度アップやご家族・地域への信頼回復に全力で取り組む。

ケアホーム花畑(特養・従来型)【定員:入所-36名】

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働率の維持、改善
 - 入所系サービスは98%を必達目標とする。
 - 地域連携の強化とスムーズな入退所の仕組みを構築する。
 - 経営分析と戦略策定
 - 毎月の収支を即時把握できる仕組みを整備する。
 - 稼働や支出状況の改善策を検討し実行する。
 - 地域貢献活動の充実
 - 地域一体となった行事等の企画、地域行事への参加を積極的に実施する。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続する。
 - サービスの質
 - 2023年8月の利用者死亡事件を受け、東京都及び足立区の指導の下、事故の原因究明・職員の教育などの取り組みを行い、ご家族様・ご利用者様安心してご利用していただける施設サービスを行っていく。
 - 認知症への理解を深め、利用者の状況に合わせた適切なケアを行う。
 - 多職種の連携を強化し、スムーズなサービスが提供できるような提供体制を確立する。
 - 事故防止委員会を中心に事故検討会議を充実させ、再発防止への取り組みを強化する。
 - 施設内研修及びケアアドバイザー等の外部指導を受け、高齢者虐待や法令順守に関する理解を深めながら良質なサービスを提供する。
 - 家族会を実施し、施設の現状報告やご家族からの意見を聞く機会を作り、信頼回復に努める。
 - 人材育成、職場環境の整備

- 多職種が協力できる体制に向け、組織体制と人員配置を見直す
 - 管理職や役職者と現場職員が常にコミュニケーションが図れるような環境を作る
 - 職員からの声を大切にし、問題の早期解決ができる組織作りを構築する
 - 職員のストレスケアやモチベーションの向上が図れる取り組み
 - サービスの質の向上に向けた研修の実施
 - マニュアル類の整備、周知の徹底。
 - 業務量の適切な管理と信頼関係を構築できる風通しの良い環境の整備。
- 介護報酬改定
 - 収益(前年度比): +3.8%
 - 要因
 - 施設サービス費の改定: +2.8%
 - 新設加算の算定: +0.8%
 - 居住費の改定: +0.2%

- 主な指標 *2023年度:2024年3月の見込値を含む

- 入所

	2023年度*	2024年度 目標
稼働率	98.1%	98.0%(-0.1%)
平均要介護度	4.0	4.0(±0)
単価(人・日)	13,100円	13,200円(+100円)

- 実現するための取り組み

- 稼働率

- ご家族・地域への信頼回復に努め、選ばれる施設を目指す。
- 地域への営業を強化し、他事業所との連携を深める。
- ホームページ等をこまめに更新し、施設の最新情報を常に発信する。
- 退所後も家族の相談場所として信頼される対応を行う。
- 地域の活動や行事に参加し連携を図る。

- 平均要介護度

- 適正な介護度であるか見直しを行う。
- 要介護度の高い方や認知症に方も積極的に受け入れる

- 加算について

- 現在の取得加算は継続して取り組んでいく

- 新規加算を積極的に取り組んでいく
 - 個別機能訓練加算Ⅲ
 - 協力医療機関連携加算Ⅱ
 - 高齢者施設等感染対策向上加算Ⅱ
 - 生産性向上推進体制加算Ⅱ
 - 介護職員処遇改善加算Ⅰの変更

- その他取り組み
 - 利用者の満足度アップやご家族・地域への信頼回復に全力で取り組む。

2024年 3月26日

2024年度 事業計画 社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとと洲本(訪問看護)

高齢者事業

訪問ステーションてととと洲本(訪問看護)

- 事業計画の概要
 - 経営
 - 稼働状況の維持、改善
 - 1人あたり1カ月の訪問時間を4,200分(稼働率50%)を目標とする。
 - 看護師の1人あたりサービス提供時間を稼働率45～50%(3780～4200分/月:189～210分/日)を目標とする。
 - リハビリの1人あたりサービス提供時間を稼働率50%(4200分/月:210分/日)を目標とする。
 - 看護師、リハビリともに月の新規利用者獲得数を純増2～3名を目標とする。
 - 看護師訪問のうち60分訪問の割合を前年度比2%(2件/週)増加を目標とする。
 - 経営分析と戦略策定
 - 稼働率:2023年度は看護師約35%、リハビリ約50%。下半期に看護師の1名入れ替わりおよび新入職1名増員あり。業務の育成期間を経て次年度は対応数の増加を積極的に進める。
 - 事業所内部的方針:24時間・365日にわたり療養生活と看取り支援を行えるよう、人材の確保および教育を行う。同時に働く職員の負担軽減も図り、持続可能なサービス提供を行えるよう整える。
 - 単価増加:
 - 要支援の割合は2022年度約21.4%⇒2023年度約27.9%と増加あり。要支援の割合を減少進めていくため、必要最低限の期間で卒業をすることを意識してプランの相談を進める。
 - 看護師対象利用者の獲得と看護師増員の取り組みを実施する。
 - 毎月の収支を把握し損益分岐点の算出により目標件数を定め、収益の安定化を目指す。
 - 把握した状況を会議で共有し、個人それぞれの稼働状況を踏まえ、職員各々の自分事としてとらえられるように毎月のフィードバックを実施し、稼働・支出状況の改善策を随時検討、取り組みを実行する。
 - 後方支援病院との連携強化し、長時間ケアや医療保険対象の重度介護が必要な利用者を把握し、早期退院から受け入れできる体制を構築し、単価増加につなげる。
 -

- サービスの質
 - 利用者・介護支援専門員に対して、看護・リハを任せただけのようケアの質向上を図る。
 - 全ての職員が一定以上のサービスを提供できるようになる。
 - 重度疾患、難病等利用者に対して、経管栄養、褥瘡処置、人工呼吸器管理等の在宅で必要とされる看護提供を安全に実施できるように努める。
 - 個人の知識や技術面の向上、接遇マナーを常に見直し、個々の質の底上げを行い、チームとしての良質なサービス提供体制を確立するため、報告・連絡・相談の統一化を図る。
 - 働く職員の負担軽減も図り、持続可能なサービス提供を行えるよう整える。
 - サービス提供にあたり、感染症予防を十分に行う。
- 人材育成、職場環境の整備
 - 研修やケースカンファレンスを実施
 - 職員本人が主体的に取り組めるよう、職種、個人の経験や特性に合わせた研修の実施。
 - 利用者の生活や地域を含めた視点に立った情報の理解や実践。
 - ICF(国際生活機能分類)視点で利用者の生活や課題を深く考察できるようにする。
 - 接遇マナーの向上。
 - 担当業務の役割を明確にし、個人のスキルアップや責任感をもった業務遂行を行うための環境を整備。
 - 労働環境における問題等を職員全体で改善に向けて話し合い、風通しの良い環境を整備。
 - 訪問に追われる等精神的な負担を軽減するため、予定時間の調整を行い、職員同士の交流できる時間を確保する。
 - マニュアル類の整備、周知の徹底。
- 改修工事
 - なし
- 介護報酬改定
 - 収益(前年度比): -1.2%
 - 要因
 - 新設加算の算定:理学療法士等による訪問看護の評価の見直しによる減算の影響

- 主な指標

*2023年度:2024年3月の見込値を含む

	2023年度*	2024年度 目標
延べ人数	11,192名	11,792名(+600名)

平均要介護度	1.9	1.9(±0)
単価(人・日)	4,063円	4,042円(-21円)

2024年度目標: 延べ人数は常勤看護人員1名増より想定

単価低下は改定の影響想定値から-0.5%程度で抑える

- 実現するための取り組み
 - 稼働率の改善
 - 利用者都合に伴う予定訪問のキャンセルに対して、積極的に振替訪問の提案を行う。
 - 看護師対象の利用者に対し、リハビリ職の定期アセスメントを実施し、看護師の行うサービス提供にリハの視点を加えたサービス提供内容としての60分訪問体制を提案できる一助となる体制を検討・整備を行う。
 - 適宜移動時間を短縮する予定調整を行い稼働率改善を行う。
 - 利用者の確保
 - サービスの質の向上
 - デスカンファレンスや経過カンファレンスの実施。
 - 自己研鑽やカンファレンス等を通じて利用者毎の特性に合わせたサービス提供を行う意識付けや各職員が主体的に考え、検討し実践できる環境を作る。
 - 関係機関への連絡の可否や申し送り内容の選定など個人レベルで自己判断しなくても良いようマニュアルの整備を進める。
 - 訪問に追われる等精神的な負担を軽減できるよう余裕のあるスケジュール調整を行い、同時間中にスタッフ同士が顔を合わせる時間を確保し、ミニカンファレンスや自己研鑽、関係機関との連携強化の時間に使用できる環境を設ける。
 - 看護師・リハビリ職互いの強みを活かしたサービス提供を検討し、提案につなげる。
 - 看護師にはリハビリの視点を、リハ職には看護の視点を持てるように研修内容に工夫を行う。
 - 居宅事業所と密に連携を行い、報告書やパンフレット、空き枠状況案内を継続行い、ご相談頂きやすい関係性の構築を継続する。
 - かかりつけ医や入院先病院への利用者の情報提供書等の連絡を密に行い、退院後のフォローをスムーズに行うことや関係性の強化を図る。
 - 後方支援病院との連携強化し、病院職員とともに退院・退所予定者の在宅フォローや、その後の再入院に繋がる流れを構築するため会議や退院前在宅訪問への参加を継続する。
 - 地域包括や兵庫県立淡路医療センター、地域の診療所、居宅事業所等と連携

を図り、迅速な相談対応を行い、相談・紹介し易い関係性の構築を図る。

-
- 平均要介護度
 - 要支援対象については、目標を明確に、できるだけ短時間で集中したサービス提供により卒業に繋げ、必要な時に再開できる体制を整える。
 - 訪問回数が多くなりやすい介護度の高い利用者の対応ができるように研修や自己研鑽を通じて質を上げ、看護・リハによる多方面からのサービス内容を検討・提案を進めていく。
 - 後方支援病院と退院予定者の早期からのフォローや再入院の支援ができる体制を構築し、重症度の高い方も積極的に受け入れ、かかりつけ医や看護職を中心に地域で一体となってサービス提供ができる体制を整える。
- 加算について
 - 訪問看護初回加算
 - 緊急時訪問看護加算
 - 訪問看護特別管理加算Ⅰ、訪問看護特別管理加算Ⅱ
 - 退院時共同指導加算
 - サービス提供体制加算Ⅱ
 - 24時間対応体制加算(医療)
 - 特別管理加算(医療)、特別管理加算・重症度高(医療)
 - 難病複数回訪問加算(医療)
 - 専門管理加算(医療)

以上の算定可能な加算の算定数を増やし、単価の底上げに繋げる。
- その他取り組み
 - 医療保険利用者の増加
 - 特定疾患、難病、末期などの医療保険対象者の受け入れを増やす。
 - 地域の在宅医療・在宅介護の橋渡しや支えを役目として、日常生活に安心を提供できるサービス提供を行い、在宅生活の最後まで支えられる存在となるため事業所全体で取り組む。